



# 核物質管理センター ニュース

NUCLEAR MATERIAL CONTROL CENTER NEWS

## 第8回アジア太平洋保障措置ネットワーク（APSN<sup>1</sup>） 年次会合について

核物質管理センター 企画室<sup>2</sup>

### 1. はじめに

APSNはアジア・太平洋地域における各国からの保障措置関係者のネットワークとして2009年10月に設立され、2010年以降、年次会合が開催されてきた<sup>3</sup>。第8回目の会合が、2017年10月30日及び31日に議長国である韓国の釜山で開催された。

今回の参加者は次のとおりである。

- ・メンバー国13ヶ国<sup>4</sup>（カンボジアが新たに加盟）から計37名
- ・オブザーバーとして、国際原子力機関（IAEA）、欧州保障措置技術開発学会（ESARDA）等から計6名<sup>5</sup>

日本からは、外務省、原子力規制庁、日本原子力研究開発機構（JAEA-ISCN）及び当センターからの計7名が参加した。

### 2. 年次会合の概要

#### 2.1 議長挨拶

第7回APSN年次会合において、2017年及び2018年の年次会合を韓国で開催することについて確認されていた。

開会にあたり、議長を務める韓国の原子力安全・核セキュリティ委員会放射線防護・緊急時対応局長であるオム・ジェシク氏から、保障措置実施に関する地域的な協力強化及び知見・情報共有のための地域的なプラットフォームの機能を果たしてきたAPSNの過去7回の年次会合での開催努力と

<sup>1</sup> APSN：Asia Pacific Safeguards Network

<sup>2</sup> 本稿をまとめるにあたり、当センター資料のほかAPSN及び外務省のウェブサイトを参照した。

(APSN) <https://apsn-safeguards.org>

(外務省) [http://www.mofa.go.jp/mofaj/dns/n\\_s\\_ne/page25\\_001086.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/dns/n_s_ne/page25_001086.html)

<sup>3</sup> これまでの会合開催実績（第1回：2009年、インドネシア、第2回：2011年、韓国、第3回：2012年、タイ、第4回：2013年、インドネシア、第5回：2014年、ミャンマー、第6回：2015年、日本、第7回：2016年、日本）

<sup>4</sup> 13か国の内訳は、オーストラリア、カナダ、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、ミャンマー、モンゴル、フィリピン、タイ、米国、ベトナム、カンボジア。このほかバングラデシュとニュージーランドがメンバー国となっているが、今回は不参加。

<sup>5</sup> オブザーバー国は、ブルネイ及びラオスであり、今回の会合にはラオスのみ参加。その他の参加国として、スリランカ及びネパール。

### 目次

●第8回アジア太平洋保障措置ネットワーク（APSN）年次会合について	1
●NMCCのページ	3
●国際原子力機関（IAEA）の11月理事会に対するIAEA事務局長冒頭声明について	4
●保障措置関連略語解説（10）	7
●本誌2017年（1月号～12月号）総目次	14
●ウィーン滞在記① ウィーンのクリスマス	15
●動静	16
●News Memo	16

## 動 静\*

- 29.12.11～15 第86回SAGSI全体会合(オーストリア、ウィーン)
- 30.1.23～25 INMM第33回使用済み燃料管理セミナー(アメリカ、バージニア州アレクサンドリア)
- 30.3.5～9 IAEA理事会(オーストリア、ウィーン)
- 30.4.23～5.4 2020年NPT運用検討会議第2回準備委員会(スイス、ジュネーブ)
- 30.5.14～17 ESARDA第40回年次大会(ルクセンブルク)

- 30.6.4～8 IAEA理事会(オーストリア、ウィーン)
- 30.7.22～26 INMM第59回年次大会(アメリカ、メリーランド州バルチモア)
- 30.9.10～14 IAEA理事会(オーストリア、ウィーン)
- 30.9.17～21 第62回IAEA総会(オーストリア、ウィーン)
- 30.9.24 IAEA理事会(オーストリア、ウィーン)
- 30.11.5～9 国際保障措置シンポジウム(オーストリア、ウィーン)
- 30.11.19～23 IAEA理事会(オーストリア、ウィーン)

\*ここに掲載している会合等は必ずしも全てが公開参加型とは限らないことをお断りします。また、2ヶ月先までのスケジュールについて網カケ表示しています。

## News Memo

### 1. 第72回国連総会での「核兵器廃絶決議案」の採択について

2017年9月から始まった国連総会は、12月5日(現地時間4日)に本会議において日本が共同提案国を代表して提出した標題決議案(「核兵器の全面的廃絶に向けた共同行動」)を採択した(賛成156、反対4、棄権24)。共同提案国は米国、英国を含む77ヶ国。賛同国には7月7日に採択された核兵器禁止条約に賛成した122ヶ国のうち95ヶ国が含まれる。

この決議案はまず第1委員会(軍縮・国際安全保障問題)で採択され(144ヶ国が支持)、原案どおり本会議に提出されていた。

決議案は主に次の内容を含んでいた。

- ▶核不拡散条約(NPT)の完全実施という核兵器国の明確な約束を再確認
- ▶包括的核実験禁止条約(CTBT)の早期発効及び核兵器用分裂性物質生産禁止条約(FMCT)の早期交渉開始に対する要請を認識
- ▶核戦力の透明性向上
- ▶被爆の実相に関する認識を向上させるあらゆる取り組みを奨励、等

([http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press4\\_005369.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press4_005369.html))

参考) 国連総会はその下に次の6つの委員会が組織されている。

- 第1委員会：軍縮・国際安全保障問題
- 第2委員会：経済成長と開発
- 第3委員会：社会開発や人権問題
- 第4委員会：特別政治問題及び非植民地化
- 第5委員会：国連の行財政
- 第6委員会：国際法規の整備や国際法の法典化



編集後記

青森県という思い浮かべる格闘家はレスリングの伊調馨(いちよう かおり)さん。現代ではスポーツ選手というほうが適切でしょうか。

同じ青森県が生んだ「強い女子」にはロンドンオリンピックで金メダルを獲得した小原日登美(おばら ひとみ)さんもいます。けれども伊調選手の凄さとして特筆したいのは四連覇(アテネ、北京、ロンドン、リオデジャネイロ)という偉業です。レスリングのように相手と組み合う競技の場合、展開が予測できない局面もあり、絶対的な優位は約束されていません。また、対戦相手も秘策を練ってきていることでしょう。自身の内に不安もあるでしょう。これらを撥ね退けて大舞台上で勝ち続けるその強さは計り知れません。

2016年、伊調選手に国民栄誉賞が授与された理由に「人一倍の努力と厳しい修練の積み重ねにより、最後まで勝利をあきらめずに金メダルを獲得」(官邸ウェブサイトより)とありましたが、まさにそのとおり。特にリオの大会では、最後まで諦めなかった戦いぶりに魅入られました。

読者の皆様もご存じのようにもう一人忘れてはならないレスリング界の「強い女子」が吉田沙保里(よしだ さおり)選手。彼女はリオの大会での四連覇こそ逃したものの、2012年には三連覇を讃えるための国民栄誉賞も受賞しました。彼女の父親は青森県の出身です。

何が彼女たちを強くしているのか、その根源にあるのは勝利への強い意思とその目標を実現するためのたゆまぬ努力だと思いますが、不屈の闘志は青森の地が培ったものなのかもしれません。

2017年に10回にわたって掲載してきました「保障措置関連略語解説」は今回で完了します。日々の業務で活用いただけましたら幸いです。

新しい年が良い年でありますように。(企)